環境とのかかわり

当社は、2002年に環境理念を制定しました。この理念に沿って6つの方針を策定し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

理念

地球環境の保全に貢献することは、当社の経営理念と合致するところであり、私たちの重要な課題の一つといえます。この課題に対処するため、私たちは地球社会の一員として「青い地球の環境保全」に取り組み、社会とのより一層の信頼関係を得られるよう努力していきます。

従業員が携帯している「環境カード」

環境方針

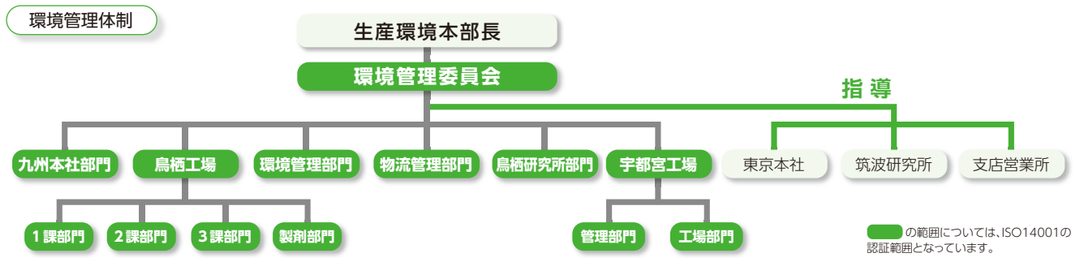
1. 省資源、省エネルギー、廃棄物削減を積極的かつ果敢に推進します。
2. 原材料、機器設備の購入にあたっては、環境への影響を十分に配慮します。
3. 商品の開発、改良にあたっては、環境にやさしい商品づくりを目指します。
4. 環境関連の法規、及び協定等を遵守するとともに、環境の汚染防止に努めます。
5. 地域社会における環境保全活動に積極的に参画し、地球環境の保護に貢献します。
6. 環境保全活動の成果を確実なものにするため、従業員の理解と認識を高める教育を行います。

ISO14001認証

九州本社(鳥栖工場を含む)と宇都宮工場で、エネルギー使用量の約85%を占めます。筑波研究所が約10%で、東京本社と支店営業所が約5%のエネルギーを使用しています。

当社は、環境負荷の大きい九州本社及び宇都宮工場を対象にISO14001の認証を取得し、環境マネジメントシステムを運用しています。2011年に定期審査を受け、認証の継続を行いました。

定期審査の様子



環境目標

環境方針の具体的な実行計画を、3年ごとの中期目的と単年度の目標として各々定め、環境負荷の低減を図っています。

2011年度は、生産工程の収率を改善し省資源にかかわる目標を達成しました。また、節電対策や高効率設備の導入、生産計画の見直しなどでエネルギー原単位も改善しました。しかし、生産工程から発生する廃棄物量は減少したにもかかわらず、震災に伴う宇都宮工場での原材料や中間品の廃棄が増えたため、全体としては廃棄物量が増加しました。グリーン調達、環境関連法規の遵守、環境保全活動の目標は達成できました。

2012年度は、生物多様性保全への取り組みを新たな目標として加えました。3カ年計画の3年目にあたる今年は、当初の中期目的を達成できるよう目標の管理を強化していきます。

	環境目的(3年)	2011年度目標	結果	2012年度目標
省資源	工場部門の改善活動テーマに従い削減する。	①工場部門の改善活動テーマに従い削減する。	○	①工場部門の改善活動テーマに従い削減する。
省エネルギー	①工場部門のエネルギー原単位を2009年度実績比に対して3%削減する。 ②省エネルギー機器を導入する。 ・全工場の蛍光灯を省エネルギータイプに切り替える。 ・空調設備の効率化を図る。	①工場部門のエネルギー原単位を対前年比1%削減する。	○	①工場部門のエネルギー原単位を対前年比1%削減する。
		②省エネルギー機器を導入する。 ・蛍光灯を省エネルギータイプに切り替える。 ・宇都宮工場復興に際し、省エネルギー対応機種を導入する。 ・空調設備の効率化を行う。	△	②省エネルギー機器を導入する。 ・蛍光灯を省エネルギータイプに切り替える。 ・製造棟の空調設備の効率化を行う。
廃棄物再資源化	①工場部門の改善活動テーマに従い廃棄物を3%削減する。 ②生産収率の向上を図り2009年度の実績に対して収率を3%向上する。	①工場部門の改善活動テーマに従い廃棄物を1%削減する。	○	①工場部門の改善活動テーマに従い廃棄物を1%削減する。
		②廃棄物の削減を図るため、目標に従い生産収率の向上を行う。	△	②廃棄物の削減を図るため、目標に従い生産収率の向上を行う。
		③宇都宮第一工場より排出される瓦礫類の再資源化及び設備機器類の再利用を図る。	△	③宇都宮第1工場より排出される瓦礫類の再資源化及び設備機器類の再利用を図る。
グリーン調達	環境に優しい原材料や建築資源などの使用を推進する。	①環境に優しい原材料や建築資材などの使用を推進する。 ・外壁の補修工事は光触媒の塗料を使用する。	○	①環境に優しい原材料や建築資材などの使用を推進する。 ・外壁の補修工事は光触媒の塗料を使用する。
環境関連法規等の遵守と環境汚染予防	CO_2排出量を2012年度の予想排出量に対して10%削減する。 ・鳥栖工場の重油をLNG(天然ガス)に転換する。	①省エネルギー法(特定荷主)の要求事項を達成するための中期計画を作成する。	○	①省エネルギー法(特定荷主)の要求事項を達成するための中期計画を作成する。
		②鳥栖工場の重油をLNGに転換するための導入方法を検討する。	○	②鳥栖工場の重油のLNG転換に関する有効性について再検討する。
環境に優しい商品づくり	新規商品の開発及び製品の使用変更時に環境への影響を配慮することにより環境に優しい商品づくりを推進する。	①新規商品の開発及び製品の使用変更時に環境への影響を配慮することにより環境にやさしい商品づくりを推進する。	○	新規商品の開発及び製品の使用変更時に環境への影響を配慮することにより環境にやさしい商品づくりを推進する。
地域社会における環境保全活動	地域社会における環境保全活動を実施する。	①自治体の環境活動に参加する。	△	①自治体の環境活動に参加する。
		②「久光ほっとハート倶楽部」を通じて環境団体へ寄付する。	○	②「久光ほっとハート倶楽部」を通じて環境団体へ寄付する。
				③生物多様性保全活動の計画を作成する

○:達成、△:ほぼ達成、×:未達成

環境とのかかわり

環境会計

環境省の「環境会計ガイドライン」に基づき環境保全コストと環境保全効果を算出しました。

2011年度は、省エネ設備の導入が2012年度に繰り越されたため、地球環境保全コストが110百万円少なくなりました。主な投資としては、モジュールチラーの導入、エアコン防音対策、高効率照明器の取替えなどがあります。その他、煤煙・水質・騒音測定、緑地整備及び環境活動団体の支援などへの投資を行いました。

2011年度は、設備の更新や使用電力の管理などで、エネルギー使用量が11%減少しました。また、生産ラインの集約や配水管の整備により水の使用量を9%削減することができました。

環境保全コスト

対象期間:2011年3月から2012年2月

分　類	2010年（千円）	2011年（千円）	前年比（%）
公害防止コスト	31,044	23,648	76
地球環境保全コスト	128,573	18,615	14
資源循環コスト	170,382	174,808	103
上・下流コスト	33,569	35,745	106
管理活動コスト	50,899	38,216	75
研究開発コスト	0	0	–
社会活動コスト	100	400	400
環境損傷対応コスト	477	387	81
合　計	415,044	291,821	70

環境保全効果

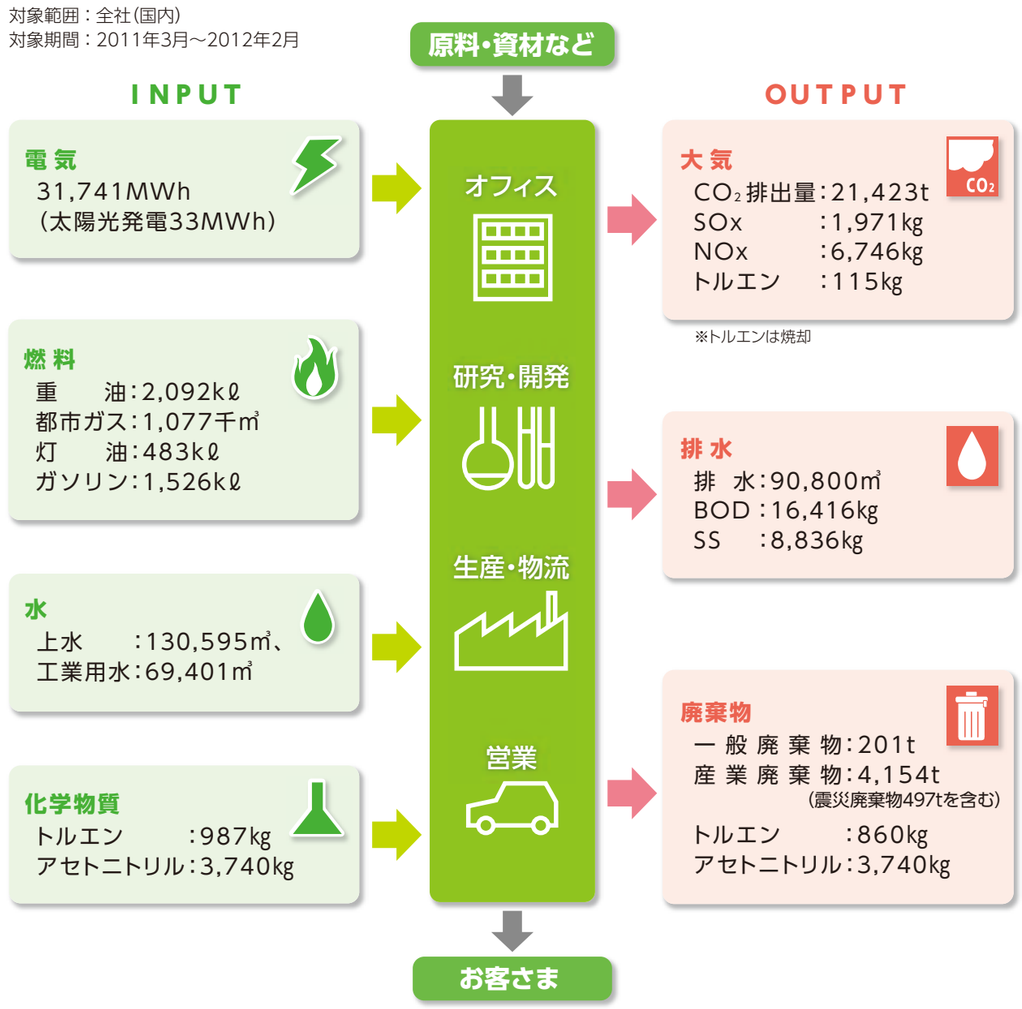
対象期間:2011年3月から2012年2月

分　類	単位	2010年	2011年	前年比（%）
エネルギー使用量	GJ	512,185	457,045	89
水使用量	㎥	218,133	199,996	91
CO_2排出量	t	23,751	21,423	90
SOx排出量	kg	2,659	1,971	75
NOx排出量	kg	9,461	6,746	72
排水量	㎥	114,523	90,800	79
BOD排出量	kg	14,942	16,416	110
廃棄物排出量	t	4,142	4,355	105
廃棄物最終処分量	t	7.68	5.71	74

エネルギー使用量とCO_2排出量は全事業所、他の項目は東京本社、支店・営業所を除く

マテリアルバランス

国内の事業活動で使用するエネルギー、水、原料・資材は、九州本社（九州本社、鳥栖工場、研究所）と宇都宮工場及び筑波研究所で90%以上となります。それに伴う、二酸化炭素排出や排水、廃棄物などの環境負荷も、この3ヶ所の事業所が大きな割合を占めます。

このため、2011年度のデータは、九州本社と宇都宮工場の他に筑波研究所や実測データがある支店・営業所の数値を加えました。

電気は、夏場の節電対策で前年比9%減、生産計画の変更で重油は前年比6%増、都市ガスは前年比33%減となりました。水も、管理を強化した結果9%削減しました。この結果、CO_2の排出や工業排水は、それぞれ7%、21%の削減となりましたが、東日本大震災による影響で、廃棄物は5%ほど増加しました。